

日本語の歴史的現在と主語の人称

松村, 瑞子
九州大学言語文化部

<https://doi.org/10.15017/6796474>

出版情報 : 言語科学. 32, pp.123-132, 1997-02-26. 九州大学言語文化部言語研究会
バージョン :
権利関係 :

日本語の歴史的現在と主語の人称

松村 瑞子

1 序

歴史的現在とは、過去のことを記述するのに現在形が用いられる現象である。異論はあろうが、タ形を過去形、ル形を非過去形（現在・未来形）¹とすると、日本語における歴史的現在形は、過去のことを記述するのに用いられたル形ということになる。ほとんど指摘されることはなかったが、²実際の会話を書き取って調べていくと、「日本語における歴史的現在は、一人称を主語とする場合には起こりにくい」という特徴が明らかになる。以下が、この特徴を例証してくれる。

- (1) 山川：そしたら会社の方に電話がかかってきて、
「舟村先生の電話番号を調べろ」って言うんですよ。②
黒柳：お兄さまが。
山川：「どうしたんだ。」「とにかく調べろ。」
で、とにかく電話番号教えて、
で、今度は「舟村先生どこにいるか調べろ」って言うんですよ。②
「そんなもん知らない。」って言ったんですよ。①
黒柳：そんな偉い方ね。
山川：当時は雲のうえの人のようなものですよ。
そいでまあ、一応調べて、… (テレビ朝日「徹子の部屋」)
- (2) 山川：そしたら会社の方に電話がかかってきて、
「舟村先生の電話番号を調べろ」って言ったんですよ。②
黒柳：お兄さまが。
山川：「どうしたんだ。」「とにかく調べろ。」
で、とにかく電話番号教えて、
で、今度は「舟村先生どこにいるか調べろ」って言ったんですよ。②
「そんなもん知らない。」って言うんですよ。①
黒柳：そんな偉い方ね。

山川：当時は雲のうえの人のようなものですよ。

そいでまあ、一応調べて、…

①一人称主語 ②三人称主語

(# はこのコンテキスト中では容認されない文を表わす。以下同様。)

実際書き取った会話(1)においては、一人称主語をもつ①の文ではタ形が、三人称主語をもつ②の文ではル形が用いられている。これを逆にした、一人称主語をもつ①の文にはル形を、三人称主語をもつ②の文にはタ形を用いた(2)では、一人称主語に歴史的現在のル形を用いた文のみが容認されなくなっていることが分かる。

この論文では、先ずこの特徴が動詞句の相的特徴に関係せず存在するものであることを示し、次に英語の歴史的現在では人称による制限は存在しないことを例証していく。最後に、話し手の事態を描写する視点を考慮に入れた分析を用いて、この特徴に説明を与えていく。

2 動詞句の相的特徴と主語の人称

曾我(1984: 124)は5つの小説の断片における時制の交替を調べ、主筋的事象はタ形で副次的事象はル形で述べられる傾向があるとした。即ち、時の流れの中で順番に起こっていった中心となる出来事はタ形で表現され、背景描写や状況の記述にはル形が用いられることが多いというのである。このことから推測されるのは、主な出来事を表わすタ形は完結性の出来事・動的動詞にあらわれることが多く、背景描写のル形は状態動詞やテイル形としてあらわれることが多いのではないかという点である。実際、曾我の用例中の文末の述語の相を調べてみると、タ形になっているものには「上った」「引き返した」等完結性の動的動詞句が多いのに対し、ル形では「している」「かがやいている」「十八である」等状態やテイル形が多いことが分かる。

すると、ここで言う人称によるタ形とル形の区別も、タ形は完結性の出来事をル形は非完結の状態を表わすことが多いことの単なる付随現象ではないかという意見も起こってくるであろう。即ち、3人称主語をもつものは状況描写と同じであるからル形で、1人称の行為は主な出来事になりやすいからタ形で表現されやすいだけではないかという意見である。

しかし、以下の例に示されるように、主語の人称によるタ形・ル形の区別は動詞句の相とは直接関わりはない。

- (3) あの、病院に入院しているってことで、それで行ったら、あの一、もうかなりね、痩せ細って、もう、こっから管を通して、ひどいんですよ。②

喉頭ガンですけど、食事できませんからね。③

で、もう痩せ細ってますから、ああだめだなあなんて思っていました。①

けど、元気よくしゃべるんですよ。②

「こんなにやせちゃってなあ」それで何か病み上手の死にべただとか言って、しゃべってますよね。②

で、その時いつもカメラもたないんですよ、③で4枚、4枚残ってるから持っ
ていこうと思って、持ってたんですよ。①

それじゃあ撮ってあげようか、で、撮ってあげようかってね、
撮ったんですよ。①

で、嫌いなのにね、こう、カメラの方、向くんですよ。②

それで、あの一、子供もね、連れて行きましたから、じゃあ孫と一緒にどうって
ね。あの、一緒にパチパチと撮って、その4枚撮ったわけですよ。①

(下線、番号は筆者)

(Szatrowski (1985): 255-6)

①語り手の行為 ②父親(第三者)の様子 ③習慣的な行為

習慣的行為の③は別問題として考察の対象からはずすと、行為、状態に関わらず、一人称の話し手が主語の場合はタ形で(「思っていました(状態)」「持ってた(行為)」「撮った(行為)」等)、三人称の父親が主語の場合はル形で(「ひどい(状態)」「しゃべる(行為)」「しゃべってる(継続する行為)」「向く(行為)」等)表現されていることがわかる。

また、上の例の設定を変えて、話し手自身が喉頭癌であったが、九死に一生を得て助かり、その時の様子を語っているとしよう。この場合、自分の様子をル形で語る(4)とタ形で語る(5)を比較すると、状態・行為に関わらず明らかにタ形を用いた(5)の方が自然であり、(4)はどうしても他人の描写をしているという印象を与える。

(4) あの一、もうかなりね、痩せ細って、もう、こっから管を通して、#ひどいんですよ。

喉頭ガンですから、食事できませんからね。

#で、もう痩せ細ってますから、ああだめだなあなんて思ってます。

(5) あの一、もうかなりね、痩せ細って、もう、こっから管を通して、ひどかったんですよ。

喉頭ガンでしたから、食事できませんでしたからね。

で、もう痩せ細ってましたから、ああだめだなあなんて思っていました。

更に、次の例においても、実際書き取った発話である(6)では、テイル形で表わされる

未完結の行為であれ完結した行為であれ話し手の行為①を描写する時にはタ形が用いられているのに対し、話し手のファンの行為②を描写する時には明らかに完結した行為をル形が表現していることが分かる。

- (6) 大きいですよ。それで、盛んにもう私はやってたんですよ、①舞台の上で。
したら前のファンの人が、「野沢さん」って言うから、手ふってたんですよ、①
声援されてるかと思って。手ふったら、「野沢さん、野沢さん」ってあんまり
言うんで、前に行って、「何なのよ」って言ったら、
「前のファスナー開いてます」って言うの。②（テレビ朝日「徹子の部屋」）
- (7) 大きいですよ。それで、盛んにもう#私はやってるんですよ、①舞台の上で。
したら前のファンの人が、「野沢さん」って言うから、#手ふってるんですよ、①
声援されてるかと思って。手ふったら、「野沢さん、野沢さん」ってあんまり
言うんで、前に行って、「何なのよ」って言ったら、
「前のファスナー開いてます」って?言ったの。②

また、(7)のように、話し手を主語とした文①をル形に、3人称を主語とした文②をタ形にすると、①は容認されない文になり、②についてもル形と比べると不自然になる。

この節で挙げた用例から、談話中におけるタ形とル形の交替には、動詞句の相とは全く異なった次元で主語の人称が関わっているらしい、ということが言える。では、何故タ形・ル形の交替が人称によって引き起こされるのであろうか。

3 英語の歴史的現在との比較

英語においては、Wolfson(1979) や Schiffrin(1981)³ の多量のデータから明らかであるが、歴史的現在と人称は直接には関わらない。次の例でも、主語の人称に関わらず時制が交替していることが分かる。

- (8) z. So I felt him lean over the bed.
aa. And I- I start laughin'.
bb. I says,
 "Oh you s-" excuse the expression
cc. I said
 "Oh you son of a bitch," right,
dd. And he came,
ee. he kissed me.

- ff. I felt his beard.
 gg. And I'm pushin'
 jj. I'm sayin'
 "O*h* my God! Who is he?" y'know.
 kk. And I PUSH.
 ll. And I'm- uh- I try to scream
 mm. and I was too scared. Schiffrin(1981)

この歴史的現在の機能を、物語中の出来事を区切るという役割を担っているとするか、物語の中核をなす話を語るのに用いられるとするかは、意見が分かれる所であるが、何れにせよ、主語の人称とは関わらないという点は明らかである。即ち、英語では、話し手自身の行為や状態を描いているのか第3者の行為や状態を描いているのかの区別は行なわず、物語中の出来事の展開や重要性に応じて、過去形と歴史的現在の交替を行なっているのである。

通常の歴史的現在とは異なる機能を持っているが、⁴伝達動詞 say/said の交替についても、人称による区別はないと考えることができる。⁵この伝達動詞の歴史的現在について興味を惹くのは、I says という形態である。以下にも例示されるように、非文法的でありながら、この形態が優勢である。

- (9) she calls back on Sunday night she said uh...
 car won't start [laughs]
 I says what do you mean the car won't start (Johnstone(1987: 40))
 (10) So he says, "All right, put your right hand up." So I said, "What the hell, right hand, left hand," I says; "I don't know what the hell to do with any of them--either hand." (Wolfson(1979: 178))

詳しいことは言えないが、非文法的にしてまでも1人称に3人称単数現在の -s をつけるようになったのは、1人称も3人称と同様に外から描写しようとしているためと推論することはできるだろう。

この節では、英語においては人称は時制の交替には直接関わっていないこと、即ち話し手は自分自身と第3者を区別しない視点から過去の出来事を語っていつていることが述べられた。Kuno(1987)の理論を援用すれば、話し手は自分自身と第3者の区別なく出来事全体が写せるような位置にカメラを置いて、語られている出来事を写しているのである。このカメラの位置の違いが、次節で述べるように、日本語の歴史的現在と英語の歴史的現在の大きな相違となっていると考えられる。

4 機能主義的観点からみた日本語の歴史的現在と人称

人称と容認度の関わりから先ず思い浮かぶのは、以下の例に見られるように、ある種の心理動詞が2人称、3人称主語を主語とした場合容認されにくいという点である。

- (11) a. ぼくは気分が悪い。
- b. *あなた、なんだか怒ってる。
- c. あなた、なんだか怒ってるみたいだね。
- d. *母はさびしい。
- e. 母はさびしそうだ。 (神尾(1990: 130))

神尾(1990: 130-1)は、1人称をもつ(11a)と違って2人称・3人称主語をもつ(11b)(11d)が不自然なのは、「これらの文の表わす情報は、心理状態の体験者、すなわち2人称および3人称主語の指す人物の縄張りに属し、話し手の縄張りには属さないと考えられる」ためである。故にこれらの文も、(11c)(11e)におけるような間接形を用いて話し手の縄張りには属さないことを示せば、許されるようになるとする。

これら人称に関わる現象を機能的原則から分析しようとした点には、異論を差し挟むつもりはない。ただ、ここで論じている(1)や(2)のような文における人称による制限については、話し手または聞き手の縄張りにあるか否かでは十分な説明はつけられない。むしろ、前節で触れたように、Kuno(1987)の議論を発展させた「どこにカメラを位置させるか」という分析が自然である。

- (1) 山川：そしたら会社の方に電話がかかってきて、
 「舟村先生の電話番号を調べろ」って言うんですよ。②
 黒柳：お兄さまが。
 山川：「どうしたんだ。」「とにかく調べろ。」
 で、とにかく電話番号教えて、
 で、今度は「舟村先生どこにいるか調べろ」って言うんですよ。②
 「そんなもん知らない。」って言ったんですよ。①
 黒柳：そんな偉い方ね。
 山川：当時は雲のうえの人のようなものですよ。
 そいでまあ、一応調べて、… (テレビ朝日「徹子の部屋」)
- (2) 山川：そしたら会社の方に電話がかかってきて、
 「舟村先生の電話番号を調べろ」って言ったんですよ。②

黒柳：お兄さまが。

山川：「どうしたんだ。」「とにかく調べろ。」

で、とにかく電話番号教えて、

で、今度は「舟村先生どこにいるか調べろ」って言ったんですよ。②

「そんなもん知らない。」って言うんですよ。①

黒柳：そんな偉い方ね。

山川：当時は雲のうえの人のようなものですよ。

そいでまあ、一応調べて、…

①一人称主語 ②三人称主語

日本語の歴史的現在が用いられた場合には、前節で述べた英語とは違って、話し手のカメラ（むしろ声も画像も録音録画できるビデオ）は描かれている物語内にいる話し手自身の心の内に置かれている。故に、3人称主語の行為や状態は自由にそのビデオで写すことができる。(1)の②が自然なのは、3人称である話し手の兄の行為や言葉をその時見たり聞いたりしたままに表現しているからである。一方、1人称と歴史的現在が共起した(2)の①が許されないのは、自分自身の行為を自分の内にあるカメラに写すことはできないからである。

日本語の歴史的現在は、このように話し手自身の心の内にカメラを置いて描写を行なうという視点をもつゆえに、話し手自身の行為・状態については、発話時にカメラをおいた過去形を用いて、外から描写せざるをえないと考えられる。即ち、1人称主語の場合は歴史的現在はほとんど用いられないことになる。一方英語においては、前節で述べられたように、歴史的現在が用いられた場合も、語り手のカメラは1人称、3人称の区別なく出来事を見渡せるような位置におかれているゆえに、人称による制限はない。日本語においては主語の人称によって歴史的現在の使用に制限があるのに対し、英語においてはその制限がないのは、このような日本語と英語の視点の相違からくるものと考えられることができる。

5 まとめ

この論文では、「日本語においては主語が1人称の場合歴史的現在が起りにくい」という点について、どこに視点をおいて事態を描写しているかという機能主義的観点より説明を与えていった。このように談話における制限は、筆者も含めて日本語を母国語とする者すらも、実際の会話を丹念に書き取って初めて気付くものである。単文のみならず、実際の談話をも考察の対象とする必要性を改めて感じる。

註

- 1 ここで言うル形には、(1)名詞+だ、(2)ナ形容詞+だ、(3)イ形容詞、(4)動詞(ル形・テイル形)の4種類の述語を含む。タ形とは、これら述語の連用形にタをつけた形式である。(砂川(1986)参照。)
- 2 Szatrowski(1985)はこの特徴を指摘してはいるが、状況によって異なるとして、あまり詳しくは論じていない。
- 3 Wolfson(1979)は、テープにとった多量のデータを用いることで、民話、冗談、旅行案内書その他で用いられる歴史的現在と異なり、会話中の歴史的現在においては物語全体が現在時制で語られることはなく必ず過去時制と交替していること、しかもそのその交替点が物語中の出来事を区切るという役割を担っていること、また最も重要な情報が必ずしも現在時制で語られているわけではないことを指摘し、会話中の歴史的現在そのものには描写を劇的にさせる効果かないと論じる。以下がその例である。

(i) Oh, yes, we decided to go to this pizza place for lunch so we sailed--we left at eleven in the morning and we got there at three, okay? Four miles--it was against the wind all the way. We get up to the place, we have our lunch, we get back in the boat, and I said to Bud, "I think the wind died." The wind died, it took us hours to get back. And we were shipping water because we had a hole in the boat. So by the time we got back, we had paddled three quarters of the way back. No wind. Absolutely dead. The sail was absolutely hanging there and I was paddling. And Bud finally took the daggerboat out and was using it as a paddle.

最初に過去形が苦勞して目的地に着いたことを表わした後、下線部の歴史的現在形は目的地での行動を手短に描く、次に何時間もかかって戻っていったことを過去形が表わしており、歴史的現在は明らかに出来事の区切るという役割を担っている。

一方 Schiffrin(1981)は、Wolfsonと同様に多量のデータを基盤として、歴史的現在は中核をなす話を語っている部分中の文に限られているとする。彼女は時制の交替が出来事を区切るという役割を担っているという点については Wolfson に同意するが、この機能をもつのは「歴史的現在⇒過去」という交替の場合のみであり、「過去⇒歴史的現在」という交替の場合、歴史的現在は EVALUATIVE 即ち「その話の山となる部分を強調する」という役割をもっているとする。

- 4 Wolfson(1979/1982)は、say/said の交替については、他の歴史的現在のように物語の出来事を区切るという考えでは説明をつけることができないため、以下のような仮説をたてて説明を試みる。

- The choice of tense has to do with patterns of dialog. If both speakers are performing the same speech act, the tense of the introducers does not change.
- As long as one speaker keeps talking, the tense used to introduce his/her speech stays the same.
- In third-person stories, in which the teller is not one of the characters talking, only the past is used.
- Different introducer tenses are used to keep apart different participants.
- Tense choices in dialog introducers have to do with differences in the relative status of the reported speakers.

しかし、彼女は上のどの仮説も十分ではないとして、結局 say/said の交替については説明を諦める。

5 Johnstone(1987) は、以下のような警官と交通違反をしたドライバーの会話における say/said の交替を用いて、過去時制を用いられるのは非権威者の発話であり、権威者の発話については歴史的現在やφ（伝達部なし）が用いられるとする。

- (i) a. and then I said what's the problem here?
b. he says well ma'am ... ah ... you didn't stop for that stop sign back there
c. I said WHAT...
d. and he says... he says
e. it's the In-
f. he just starts off rattling
g. it's the Indi- Indiana State Law you must come to a complete stop... before the stop sign da da da da
h. I said I did
i. I said where were you sitting anyway [laughs]
j. he says I was right in that parking lot by the church
k. and that parking lot's right back here [indicating on table]
l. you can't even see the stop sign
m. I said I'm sorry
n. I said you didn't see me
o. he said it's the Indiana State Law da da da da

参考文献

- Johnstone, Barbara. 1987. " 'He says ... so I said': verb tense alternation and narrative depictions of authority in American English." *Linguistics* 25, 33-52.
- Kuno, Susumu. 1987. *Functional Syntax: Anaphora, Discourse and Empathy*. Chicago: University of Chicago Press.
- 曾我松男. 1984. 「日本語の談話における時制と相について」『言語』1984年4月号, 120-7.
- Schiffrin, Deborah. 1981. "Tense variation in narrative." *Language* 57, 45-62.
- _____. 1986. "The management of cooperative self in argument: The role of opinions and stories." *Conflict Talk*, ed. Allen Grimshaw, 1-32. Cambridge: Cambridge University Press.
- 神尾昭雄. 1990. 『情報のなわ張り理論 言語の機能的分析』大修館書店.
- Szatrowski, Polly Ellen. 1985. *The Function of Tense-Aspect Forms in Japanese Conversations: Empirical and Methodological Considerations*. Ph.D. Dissertation, Cornell University.
- Wolfson, Nessa. 1979. "The conversational historical present alternation." *Language* 55, 168-82.